

まちづくりネットワーク

NPOとはなに？

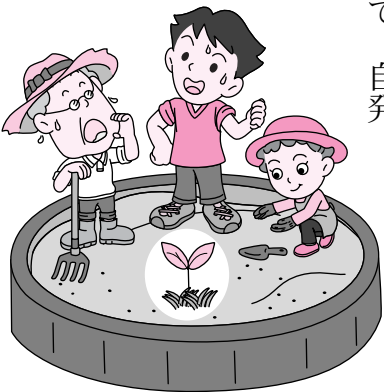
NPO法(特定非営利活動促進法)が施行され、今年で10年になります。しかし、市民の皆さんにはなかなか広まらず、「それって何?」「日本語でない?」「こんな声が、磐田NPO交流センターの利用者の方からも聞こえてきます。そこで、改めてNPOということについて、再確認します。

Q1 NPOってなあに？

NPOとは、「Non Profit Organization」という英語の略称で、一般的には「民間非営利組織」と訳されています。



営利を目的とする株式会社などと違い、市民が主体となつて、社会的な課題や地域の課題解決を目的として、自発的、継続的、公益的な活動をすることをいいます。広い意味では、財団法人・学校法人・社会福祉法人・団法人などもNPOに入りますし、自治会も含まれます。



Q2 NPOとボランティアとの違いは？

「ボランティア」とは、社会のために何かしたいという意思を持ち、自発的に活動する個人を言います。

「NPO」は、社会貢献活動をしたいという強い思いや使命を持ち、自発的に活動を起こしていく「組織」を指します。ボランティア活動に仲間が集まり、定例化し、継続的に活動が行われていけば、NPOと言えますでしょう。

ボランティアは本来無償の奉仕

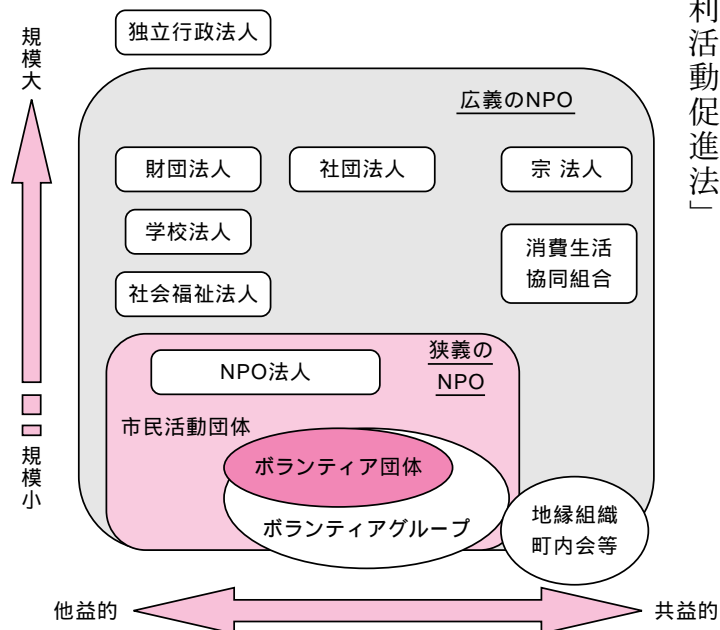
を指しますが、最近では、交通費・ガソリン代などの最低限の経費を支払ったり、給与・報酬といえるほどでなくてもお金(謝金)を支払う有償ボランティアという形もあります。NPOでは、最低限必要な費用は受益者に負担頂き、それらを資金として、ボランティアも含めた事務局スタッフを中心にしっかりとした会の運営、活動の継続をしていくものです。

Q3 NPO法って？

「特定非営利活動促進法」の通称名がNPO法です。阪神・淡路大震災の際、ボランティア活動をはじめとする市民活動の重要性が再認識されたことから、議員立法により、成立しました。この法律により、

これまで任意団体が法人格を取得することができるようになったのです。磐田市の場合、静岡県の認証を受けるとNPO法人を取得することができます。NPO法人になれば、団体の個人負担が軽くなるため、契約や財産の所有ができ、定期的・継続的な活動が行いやすくなります。また、権利や責任の所在を明確にすることで、社会的信用を高めることができます。

市内には現在22の法人があり、福祉や環境など活動分野はさまざまです。



*「NPO基礎講座(山岡義典編 ぎょうせい)を参考に作図しました。
*19年8月 県NPO推進室発行「NPOって何?」から引用しました。

平成20年1月20日、磐田NPO交流センターにて協働を考える市民フォーラム(市委託事業)が開催されました。

「協働によるまちづくりへ」と題し大和田清隆氏の講義と質疑応答のあと、事例紹介として(社)磐田青年会議所、今之浦川流域を美しくする会、まちづくり磐田の3団体の発表がありました。

市民の参加から、共通の目的へ向かい相互に役割を持つ協働へ。対等の関係パートナーシップの構築。そのために協働の指針で道筋を示し、さらに条例づくりへと進む場合が多いこと。

浜松市における協働推進条例の策定の中で「あなたの思いをまちづくりに活かさせませんか」という発想から、市民協働アイデア提案活用事業「たねからみのり」という取り組みができたこと、その運営の苦労話などがありました。



大和田清隆氏は、青年海外協力隊での活動後、地域計画のコンサルタン卜などを通して市町村の計画づくりやまちづくりに関わってこられました。近年では、平成14年から18年9月まで「浜松まちづくりセンター」初代センター長として活躍されました。また、浜松市市民協働推進委員会の委員として、協働推進条例策定や協働事業のサポート、まちなみ保存・活用などの支援を進めてこられました。



協働の推進に対して

- ① 目的の共有がなされたか
- ② 対等関係が築かれたか
- ③ 自主性が尊重されたか
- ④ 相互の理解が十分だったか
- ⑤ 情報共有、公開がなされたか
- ⑥ 多様な巻き込みがなされたか
- ⑦ 成果が生かされたか

「まちづくりとは、市民の一人ひとりが変わることで。事が進まないのはその部分で自分は何をしたか、何が足りないのかを考えよう」との言葉がありました。

磐田市では、平成19年3月に「協働によるまちづくりに向けての指針」が約半年の協議を経て策定されましたが、もつと話題として周知され、市民・行政・企業が互いに意識改革を図っていくことが大切だと思えます。

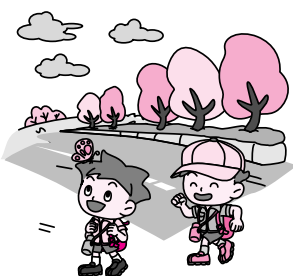
20年度中には、「(仮)協働のまちづくり推進条例」の策定へと進んでいきます。指針をもつと有効に活用し、フォーラム・勉強会を継続的に開くなど、慎重な議論が望まれます。

事例紹介

(社)磐田青年会議所

小学校5・6年生に向けて18年度行なった「キラリ☆サマーキャンプ」は、夏休みの同時期、同会場で教育委員会も「リ

ーダーズキャンプ」として開催していました。19年度は、教育委員会やNPO法人磐田市体育協会・磐田市健康づくり食生活推進協議会などが協働して開催したことが紹介されました。



考える
フォーラム開催

日(日)



ワーク」は、これからも磐田の協働の推進についてお知らせしていきます。

今之浦川流域を
美しくする会



見付宿を
考える会・
水の部会か
ら発信した
磐田市の中
心を流れる
今ノ浦川上
流部（国道
1号近辺ま
で）への活
動が「中川
プロジェクト」と称し
て広がっている様子のお
話がありました。



さら
に「今
之浦川
流域を
美しく
する会
として
沿線に
河津桜

中川の3面コンクリー
ト張りを県袋井土木事務
所と協力し一部撤去、ビ
オトープのある川底に変
え、小学校・地域住民と
楽しんで活動しています。

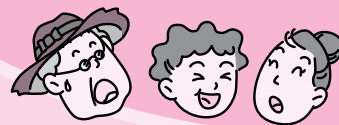
まちづくり磐田



を
働
協
働

市民フォー

1月20



参加者より次のような感想や意見がありました

参加者が予想より多く、盛会だったと思います。
行政の方も多く参加していましたし、「協働」
の理解や意識が進んだのではないのでしょうか。

まちづくりに対する市民と行政との関係が
大きく変わっているのでしょうか、市民が
しっかりせねば...と感じます。

行政はもっと問題や課題を
公開して市民の知恵や技術、
マンパワーを活用すれば協
働の推進になるのでは。

市民側の意識も、「わが
まち、いわた」を大きく見て、
細部についても考えを及ぼし、
課題解決に取り組みばよい
と思います。

「今之浦川流域を美しくする会」
の活動に感心しました。
やっている人、参加してい
る人が楽しんで、地域に役立っ
ている感じが伝わりました。

青年会議所の事業は、青少年の育成
という大切なことですが、磐田市全
体の魅力度向上にどう取り組んでい
るかも聞きたかったです。

まちづくり磐田は、中心市街地活性化に向けて
様々な事業展開、仕掛けをされており、素晴らしい
取り組み・研究と思うが、高齢化率の高さと既存商店
者の熱意の創出といった課題も多いと感じます。

市民・行政が困っている事、手助けが必要
な事などを具体的に開示して、共通の課題とし
て取り組んでいく（協働事業）としてトライ
出来たらよいと思います。

協働のポイント、人が変わらなければまちが
変わらないなど、自己改革の話はまさしくその
通りだと思いました。人はなかなか簡単には
いきませんが...

磐田NPO交流センター通信「まちづくりネット

市民活動の報告と意見交換

1月11日、市議会議員と磐田NPO活動推進協議会との意見交換会を開催しました。出席してくださった議員の方々には五名でした。まず、市内の市民活動の様子や磐田NPO交流センターの利用状況、当協議会の活動状況を報告しました。

協働のまちづくりについての意見交換がされ、公設民営のまちづくりの中間支援センターとしての役割などについて

磐田NPO交流センターおよび磐田NPO活動推進協議会の存在や必要性を行政や議会、市民にさらに知ってもらうことが大事である。

そのためには、市民活動の情報収集・情報発信の拠点としての役割や機能が、もっともっと前面に出ていく必要がある。

協議会をはじめ、それぞれの市民活動の運営の中では、コーディネーターの役割が大変重要であり、その育成も課題ではないだろうか。

NPO活動の内容によっては、地域発展の原動力とも成り得る。これから検討される「(仮)協働のまちづくり推進条例」にも反映されるとよいであろう。



運営や事業に、また移転問題にも前向きに取り組んでいきたいと思いません。

今回の懇談内容を十分活かし、今後の管理について、示唆に富むご意見をたくさんいただきました。

NPO講座でスキルUP

今年度のNPO講座は、利用会員の要望により、スキルUP講座を開催しました。

第一回(H19・6・5)

「ブログ講座」
講師・いわたネット

当協議会のホームページのトップページにブログによる団体の活動紹介があります。多くの情報をいただきたく、ブログの研修会を開催しました。タイムリーな情報収集・情報発信を目指し、



自分たちで使いなから、ブログの良さを感じ、活かしていければと思っています。

第二回(H19・7・16)

「イベント入門講座」
講師・橋本 茂 氏

イベント産業振興協会認定研究員

さまざまな団体では、大なり小なりイベントや行事を実施しています。内容の

マンネリ化を防ぎ、参加者が楽しめるイベントについて、講師のこれまでの企画・運営等の実践を交えた内容でした。達成感のある充実したイベントにしていくための考え方、仕掛け方の基本について学びました。



第三回(H20・3・8)

「パワーポイント講座」
講師・いわたネット

活動紹介や報告等の情報発信には、パソコンを使ったスライドでの紹介も分かりやすいものです。その表現の仕方の一つにパワーポイントがあります。機能の特徴と基本的な作成ポイント、留意点などの入門編でした。



今後皆さんのご要望に応じ、企画していきます。

編集後記

前号は、これまでとはイメージを変え、団体紹介の特集号でした。磐田NPO交流センターへのお問合せも多く、市民の中には、「何か始めたい」「あの団体に、関心がある」「身近にこんな活動をしていた人たちがいた」などの声をいただきました。

「載せて欲しかった」という言葉も耳にしましたので、このような温かい言葉を大切にしながら、今後の編集企画を考えていきたいと思えます。(たんぼぼ)



磐田NPO交流センター通信
第21号 平成20年3月15日発行

編集・発行 / 磐田NPO活動推進協議会
〒438 0078 磐田市中央町112 4
TEL(0538)36 1890
E-mail: info@npo-akita.jp

監修 / 磐田市総務部自治振興課
〒438 8650 磐田市国府台3 1
TEL(0538)37 4811
印刷所 / 中央印刷株式会社